読者の「リアル」を大調査

婦人公論 女性の生き方研究所 vol.14

あなたにとって「家事」とは? 後篇

創刊以来、〝女性の生き方研究〟を積み重ねてきた『婦人公論』。この連載では、読者のみなさんへのアンケートを通して、今を生きる女性たちの本音にせまります。前回に引き続き、家事に関するアンケートの回答をご紹介します

回答者数288人　平均年齢▼62・8歳
回答者の内訳▼60代…95人　70代…60人　50代…49人　80代…31人
40代…20人　30代…18人　90代…4人　20代以下…9人　不明…2人

Q 使ってみたい家電や道具、外注サービスは?（複数回答可）

【家電・道具部門】

1位　ロボット掃除機…34人
2位　食洗機…17人
3位　乾燥機付き洗濯機・乾燥機…10人
4位　圧力鍋・電気圧力鍋…9人
5位　コードレス掃除機・最新掃除機…8人

他には…ホームベーカリー、フードプロセッサー、AIスピーカー、オーブン、最新アイロン、床拭きロボット、スチームクリーナーなど

【外注サービス部門】

1位　掃除代行サービス・ハウスクリーニング…61人
2位　エアコン・換気扇クリーニング…19人
3位　弁当・食事キットの宅配…18人
4位　家事代行サービス全般…14人
5位　生協の宅配・宅配サービス…6人

他には…庭の手入れ・草取り、買い物代行サービス、整理収納など

Q「あったらいいな」と思う道具やサービスは?

●ボタンを押すと、浴室全体をきれいに洗ってくれるシステム。ガソリンスタンドの洗車機のような感じ　（60歳・専業主婦）

●シーツや布団カバーは、洗濯干しも収納も場所をとるし、着脱が手間。洗濯しないまま好きなサイクルで好きな柄に交換でき、ベッドメイキングまでしてくれるサービス（52歳・司会業）

●階段を掃除できるロボット掃除機　（58歳・会社員）

●家事を頑張るとポイントがたまり、ポイントに応じて最新マッサージ機が使用できる　（61歳・専業主婦）

●自動で服の整理整頓をしてくれるタンス　（41歳・自営業）

●義母の話し相手になるサービス。ご近所から嫌われていることに気づかぬまま、相手の都合を考えず、一方的に喋ってしまっているらしい　（45歳・専業主婦）

●頭を入れたら、髪のセットと化粧が済んでいる機械　（55歳・無職）

●壁と床の間に吸引穴が開いていて、床のホコリを自動で吸い込んでくれる家（62歳・パート）

婦人公論ヒストリー

何のための家事代行サービス?

家事の分業化の時代

今回のアンケートで、使ってみたいサービスに挙げられていた「家事代行サービス」。『婦人公論』では、何度もその内情を探ってきました。

初出は1983年6月号の記事「主婦代行業のお値段」。ベビーシッター2250円、食材の宅配サービス1150円、フスマの張替え6000円から、夫の愛人問題の解決5万円という変わり種まで……。40年前にはすでにさまざまな「代行業」が存在したようです。

依頼者は主婦、しかも専業主婦が大きな割合を占めていました。その状況は当時の社会でどう受け止められていたのでしょうか。家事代行サービスを始めた、ある女性社長は、男性記者に「おたくが繁盛するのは、主婦が家事、掃除をサボっているんでしょう」と言われ、反論します。〈「女性のライフスタイルの変化に合わせて、家事のスタイルも変わりつつあるのですッ（略）部屋の汚れも油が加わり、素人では手入れが大変になっていますし。複雑でやっかいな場所を、主婦の仕事から切り離し、専門家に任せる。つまり、家事の分業化の時代なのですッ」〉（『掃除代行業一年間の決算』88年2月号）

この女性は、ドイツ流の掃除術を広めたフラオ グルッペ社長の沖幸子さん。時代の波を読み、新しい暮らし方を提唱する起業家ならではの強い思いが感じられます。

罪悪感というより劣等感

時代はさらにくだり、2000年。「家事代行サービスを頼んでみたら」（3月7日号）というルポには、〈苦手なことは専門家に頼むのが一番と、最近の専業主婦は割り切っているらしい〉という一文が。

対して、19年10月23日号のルポ「ラクすることに罪悪感がつきまとうのはなぜ?」では、利用者がその心情を吐露しています。〈何度も肯定しようとするけれど、やっぱりお金で家事を買っているという気持ちは消えない。罪悪感というより劣等感でしょうか。〝頑張りきれてない〟気がするんです。（略）もはや自分との闘いですね（笑）〉。

料金を高いとみるか、安いとみるか。家事代行を効率化とみるか、贅沢とみるか。40年以上が経過しても、主婦たちの心の中では、綱引きが終わらないようです。

Q あなたにとって家事とは?

- 認知症予防の一つ（53歳・専業主婦）
- 比叡山で行う「千日回峰行」。つまり修行です（61歳・パート）
- 最大の気分転換。江國香織さんが、『泣く大人』というエッセイ集で、家事を無心にやることはストレス発散であり、命の洗濯だと言っていたが、同感です。やれば必ず成果が見える（38歳・自営業）
- 料理が好きで、作っているときは、ひとり暮らしの悲しさ、つらさがすべて忘れられます。その後のキッチンの掃除も楽しいです（81歳・自営業）
- 誰からも感謝されない義務。怠ると健康を損ない、生活に差し障りがあるので、やらざるをえない（51歳・パート）
- 家をパワースポットと考えているので、心地よさをキープするための作業（47歳・自営業）
- 家族を生かす義務と責任（46歳・専業主婦）

次回は「生活がラクになった〈お助けグッズ〉を教えてください」の回答をご紹介します